

専念寺通信

五月号 (NO. 141)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



専念寺のしだれ桜がようやく満開になりました。銀杏も櫟も緑を増してきました。まるで初夏のような陽気の臍月ですが、皆さま、お元気におすごしでしょうか。

☆施餓鬼会

今年の施餓鬼会は5月27日です。毎年、5月の最後の日曜に行なわせて頂いています。施餓鬼会は、飢餓に苦しむ餓鬼に飲食（おんじき）を施す法会（ほうえ）です。お釈迦さまの弟子、

阿難がある日の夕暮れに瞑想していると、口から炎を出す焰口餓鬼（えんくがき）が現われます。鬼は、阿難の命があと3日であると告げて消えます。阿難は苦悩し、お釈迦さまのもとに教えを乞いに行きます。阿難は、釈尊の教えに従い、餓鬼道に堕ちて苦しんでいる焰口餓鬼のための法要を営みました。その結果、飢えに苦しむすべての餓鬼は救われ、阿難もまた、福德寿命を得ることができました。この法要の意味は、ただ、餓鬼道に堕ちているひとを救うために飲食を施すだけでなく、供養を通して、いま困難な状況にあるこの世のすべての存在に思いを致し、あわせて私たち自身も救われることを願うという点にあります。昨年の大震災と、それに続く、人災と呼ぶべきかもしれぬ原子力発電所による深刻な、終わりの分からない災害、それらに遭遇したのは、「被災地」の人たちだけではありません。この、地震の多い列島に住む私たち全員が当事者なの

です。私たち全員が被害者であり、もしかしたら、どこかの点で加害者だったかもしれず、今後、直接の被害者になるかもしれず、もしかしたら、知らず知らずのうちに、ふたたび加害者になるやもしれません。つらい状況にあるすべての生命に、そして、失敗を繰り返してしまいそうな私たち自身のために、祈願いたしましょう。



専念寺の弟子、小沼久志が、無事、修行を終えて浄土宗僧侶の資格を得、今年の1月から住職とともに法要を営んでおります。京都の百万遍智恩寺で2回、鎌倉の光明寺で2回の行のあと、昨年の暮れ、東京の大本山・増上寺にて加行を終えました。法名を法連社誓誉上人久志和尚と申します。今年から施餓鬼会にも随喜させていただきます。また、年回法要のほか、病氣療養中の住職に代わって、お通夜・ご葬儀における導師をとめさせていただきます。仏法に仕える者として、現代社会における宗教者のありかたについての自覚を厳しく促しながら、さらに精進させる所存です。どうぞよろしくおねがいたします。

お施餓鬼の日が今年こそ良い天候に恵まれますようにと願いつつ、皆さまのおいでをお待ちいたしております。

平成24年5月1日 大黒

